

## 第 65 回 株式会社 USEN 放送番組審議会 議事録

### ■開催日時

2020年7月9日(木)16:00～

### ■開催場所

東京都品川区上大崎 3-1-1 USEN 本社

本社ミーティングルームをベースとして、委員および USEN 側の一部がテレビ会議形式で出席。



### ■出席者

湯川 れい子 委員長

富澤 一誠 委員

品田 英雄 委員

和合 治久 委員

長谷川 演 委員

### ■局側出席者

代表取締役社長 田村 公正

取締役副社長 大田 安彦

コンテンツプロデュース統括部長 山下 光儀

コンテンツプロデュース統括部編成部長 松本 茂雄

コンテンツプロデュース統括部制作部長 村田 徹

コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課長 小島 万奈

コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 本多 義明

コンテンツプロデュース統括部制作部制作1課 三浦 祐司

【番組審議会事務局:森角、林、大園】

## 議事内容

### 1. 会社動向、放送事業動向についての報告

- (1)第 56 期第 2 四半期経営成績について
- (2)音楽配信における新型コロナ起因による影響について
- (3) 新型コロナウイルス感染防止メッセージ放送について

コロナ感染防止行動、呼びかけチャンネル「We believe future!」を立ち上げ、5月7日から放送を開始した。本プロジェクトにご賛同頂いた総勢50名を超えるアーティスト、俳優や声優等から、呼びかけ・応援のメッセージを頂く。施設内での感染防止と、働く方々のストレス軽減に少しでも役立てて頂けるように、USEN-NEXTグループの支援活動として、病院・交通機関・公共施設・生活必需品を取り扱う店舗等を対象に全国5万施設に無償で設備の設置、放送システムを提供した。

### (4)『With Music』の発行について

2020年3月、会報誌『With Music vol.51(2020年4～9月号)』を発行。業務店/個人宅のお客様にお届けした。

### 2. 審議課題

次世代を担うBGMコンテンツとは

### 3. 【対象番組】

- (新番組企画)「上質空間向けBGM-ジャンルレス(仮)」
- (新番組企画)「上質空間向けBGM-クラシック(仮)」
- (新番組企画)「Let It ROCK MUSIC!(仮)」

### 4. 審議

#### 【放送局】

今回は「次世代を担うBGMコンテンツとは」を審議テーマとし、次世代を担うBGMとしていきたい新番組企画「上質空間向けBGM-ジャンルレス(仮)」、「上質空間向けBGM-クラシック(仮)」、「Let It ROCK MUSIC!(仮)」を審議頂きたい。

#### 【審議委員】

「上質空間向けBGM-ジャンルレス(仮)」を聴くに当たり、「上質空間」がどういうものか考えた。音楽療法的には、その場の環境に合っていることを前提として、音がまろやかで柔らかいこと、全体的に温もりが有って心が温かくなる性質を持つこと、そしてそれらの音が重なって広がりのある音色が生まれていること、これらの特徴を持つ音楽が提供された場所が「上質空間」だと思う。

そして、「音楽の高級感」はどういうものかも考えた。これは人それぞれだと思うが、音楽療法的には、音楽の中に深みがあること、明るくてテンポが良いこと、リズムが有って心地良くなることが「音楽の高級感」に繋がると思う。

これらを加味しつつ、リズム感、テンポの良さ、メリハリ、世代、カジュアルさ、ストリート感等、全体的に評価しながら聴いた結果、私の考える高級感は無かったように思うが、リズム感やテンポの良さは非常に感じた。無機質でクールな印象の楽曲を選曲しているということで、繰り返しの多い曲ばかりになっていて非常に単調だったが、もう少しメリハリがあればお洒落感が出たのではないかと思う。どの世代をターゲットにした選曲か分からなかったのだが、制作者はどの世代をター

ゲットに選曲したのだろうか。

#### 【放送局】

30代、40代をターゲットにしており、上質空間と言えるかどうかは私も分からないが、ハイブランドを扱うアパレルショップやホテルのラウンジでの利用を想定して選曲した。また、単調であるというご意見を頂いたが、無機質でクールな印象の楽曲を選曲しているため、敢えてこのような選曲になっている。

#### 【審議委員】

USENには数多くの番組が有り、それらと比べると「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」はコンテンポラリーな内容の番組だ。企業のニーズを受けての企画ということだが、このような番組は今後更に求められると思うし、もっと沢山有っても良いと思う。

しかし、番組名は考え直した方が良い。USENの利用者がどの位の世代か分からないが、どちらかと言うと上の世代が多いのではないだろうか。例えば、50代の私は「上質空間」と聞くと応接室のソファや高級なマンションのモデルルーム、格式有るホテルのラウンジ、単価の高いエステや美容室をイメージするので、そのつもりで「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」を聴くと、若々しく思えてギャップを感じる。そもそも、ハイブランドのアパレルはブランディングの一環で BGMもブランド毎に選曲しているだろうから、この番組は使われないのではないだろうか。「上質空間」を上質ではなく、格好良い、個性的、新しいと捉えるとしっくり来るので、ファッション・アパレル向けであることが分かる番組名を付けると合うだろう。

#### 【審議委員】

「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」は、私も楽しんで聴いたが番組名には違和感を覚えた。

#### 【審議委員】

私も「上質」の意味合いは非常に難しいと思う。「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」は新しい、お洒落、格好良い、今っぽいという点では非常に良いジャンルレスな選曲だが、上質かと言われると違う。上質という言葉を使わず、番組名を考え直すと新しいニーズが有る番組だと思う。

上質＝身近、緊張－リラックスの2軸で考えると分かりやすい。そして、上質な雰囲気を作り出したい時は緊張した雰囲気に寄せて行くと良い。一方、リラックス出来るということは、慣れ親しんでいて気持ちが楽であるためということが有るが、上質でリラックスした雰囲気の選曲は難しい。この点から、上質な雰囲気を作り出したい時はカバー曲も選曲しないほうが良いと思う。

BGMとしての統一感に関しては、BPM やボリュームの点では統一感が有り非常に良かったが、ヴォーカル曲/インストゥルメンタル、ソロ/アンサンブル、無機質/有機質の点で言うと統一感は感じなかった。

ホテルの今風のラウンジのような新しい空間では空間演出として BGMも重要視しているので参考になると思う。

#### 【審議委員】

他の審議委員も言っているが上質というのは難しい。

人によって上質というものの自体の価値観が違い、私自身、安い居酒屋から高級店まで行くが何を以て上質と言うかよく分からない。そのような中で選曲するためには、まず上質空間自体をターゲットにするのか、上質空間に来ている人をター

ゲットにするのかを明確に設定する必要がある。裕福な人でもいつも肩肘を張っている訳ではなく、フォーマルな時もあるればカジュアルな時もあるもので一概には言えないが、まずは上質空間というのはどういう場所なのかということと、そういう場所に来る人の世代を考える必要がある。

私がおその場所と人について考えた時、ニューエイジ・ミュージックのアーティストの喜多郎さんを思い出した。喜多郎さんはニューヨークで人気になり、2001年にグラミー賞を受賞するまでになったが、以前ニューヨークに行った際、喜多郎さんは何故人気になったのか話を聞いた。当時、ヤッピーと呼ばれる人達が居て、彼らが日本食レストランに行った際流れていたのが喜多郎さんの曲で、そこから話題になっていったそう。つまり、正しく当時の上質空間に流れていた音楽が喜多郎さんの音楽だった。今で言うと久石譲さんや松居慶子さん、服部克久さんの音楽で、高級なウイスキーに合うような音楽が「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」で流すのに相応しいのではないかと思う。

今回、上質空間向け BGM として「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」と「上質空間向け BGM-クラシック(仮)」が企画されているが、2番組も必要なのだろうか。「上質空間向け BGM-クラシック(仮)」で選曲されているクラシックは一般的にイメージされるクラシックとは異なり、「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」はその名の通りジャンルレスな番組なのだからクラシックも選曲して、1番組にすれば良いと思う。

#### 【審議委員】

「上質な空間」を演出する上でクラシックに敵う音楽は無いだろうと思っていたが、「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」でクラシックとは異なる「上質」を演出することが出来るのであれば、挑戦しようがある。

「上質空間向け BGM-クラシック(仮)」は非常に自然に、そして気持ち良く聴けたが、新しさはあまり感じなかった。「B-39 バロック」と聴き比べると違いを感じたので、やはり選曲の妙があるのだろうが、利用空間を「高級ホテル」と一括りと言っても、格式有るホテルと新しいホテルとでは選曲の仕方は変わってくると感じた。

クラシックを集めて放送すれば必ずしも「上質な空間」を演出出来るということではない。アダージョ・アンダンテ位のテンポで、ビートが無い楽曲を集めて統一感を持たせると良いと感じた。クラシックは既に出来上がっている音楽なので、ターゲットの好みに合わせて、選曲基準を整理して選曲すると良い。

#### 【審議委員】

そもそもクラシック=上質というイメージがある。「上質空間向け BGM-クラシック(仮)」は現代のアーティストの解釈で演奏されるクラシックの楽曲を中心に選曲しているということだが、クラシックの中でも新しさ、個性的、現代的という要素の有る楽曲を集めてしまうと、クラシック本来の上質さが失われてしまわれるように感じた。「上質空間向け」という言葉が使われてはいるが、実際に表現したいのは質が上であるということではなく、上質とはまた別の質なのではないだろうかというのは少し感じた。

選曲内容としては結構幅広く、聴いていて曲調がガラッと変わる楽曲が幾つかあったが意図的な選曲だろうか？空気を作るのが音楽だと思うが、今の選曲内容だと上質な空間に重厚感ではなく緊張感が生まれてしまっており、音が主役になってしまっている。

「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」と同様、コンテンポラリーな内容の番組になっていると思う。

#### 【審議委員】

私は、テンポはどうか、モノトーンな選曲か、上質さ・高級感が醸し出されているのか、現代性や気品があるかという点に留意し、「上質空間向け BGM-クラシック(仮)」を聴いた。テンポに関しては全体的に緩やかだったが、中にはアップテン

ボな楽曲も有った。「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」と同様、モノトーンな選曲でメリハリが無かったので寂しく感じた。

私はバロックの影響を受けた昔の作曲家のクラシックしか詳しくなく、普段クラシックを聴く際は、奥深さ、透明感、豊富な和音の心地良さに留意して聴く。そのため、現代のアーティストの解釈で演奏されるクラシック自体がよく分からず、また、アクセントとして選曲されている現代音楽、ジャズ、アンビエントとクラシックの相性が良いかどうか分からなかった。したがって、「上質空間向け BGM-クラシック(仮)」は制作者が意図する現代性や気品、カジュアルさ、ストリート感を感じたが、奥深さ、透明感を感じ取れなかった。この番組は上質空間に合うか判断しかねる。

「Let It ROCK MUSIC！ (仮)」は非常に気に入った。幅広い層がコミュニケーションを楽しむ場をターゲットに、クラシック・ロックの楽しさ、魅力が感じられる選曲をしているとのことだが、まさにその通りだ。非常にアクティブで、テンポとリズムが良いのでダンスブルで、高揚感が高まるのでポジティブになる。制作者の意図がちゃんと選曲に反映されていた。

#### 【審議委員】

USEN にはロックの番組が沢山有るが、その中でも「B-19 ROCK CLASSICS」と選曲内容が被っているのではないかと思います。程、「Let It ROCK MUSIC！ (仮)」では私の年代にはまる定番曲が沢山選曲されていて非常に聴きやすかった。先程まで審議していた「上質空間」とは異なり、利用シーンがイメージしやすく、ビアガーデンのような私の年代が集まる場所でこの番組が流れていたら盛り上がるだろうと思った。ただ私自身あまりロックを聴かないので、懐かしんで聴くというよりは、逆に新しく感じられて勉強になった。

#### 【審議委員】

私にとっては想定外の選曲で、1970 年代にまだ生まれていなかった人、30 代の人を選曲したのだらうと思ったが、だからこそ非常に興味深く聴いた。

#### 【審議委員】

有名アーティスト、有名曲が選曲されているので聴いていて楽しいが、真剣に BGM として聴くと結局今、ロックとはどういう音楽を指すのかとふと疑問に感じた。The Beach Boys「I Get Around」が選曲されているが、The Beach Boys をロックだと言われると違和感が有る。ロックはやはり尖っていて、既存の物を壊すというメッセージが音に込められているかということが結構重要であると思った。ロック好きが、懐メロとしてこの番組を聴くにはさまざまなロックが有ったと思い出しながら楽しんで良いが、ロックを格好良いと評価して聴くには違和感が有る選曲だ。ただ、若い人がロックを選曲するとうなるのかと発見も有ったし、この番組の良さ悪しは番組のターゲットによっても変わる。ロックの意味を分かりやすく、番組名も含めて再度検討してもらいたい。

#### 【審議委員】

私も昔からロックを聴いてきたが、そのような人が選曲すると「Let It ROCK MUSIC！ (仮)」のような選曲にはならない。定番、名曲ではなく、楽しく、刺激的で、ダンスブルな楽曲が選曲されているので尽く期待を裏切られるのだが、それがこの番組の醍醐味だと思う。そもそも、この番組を企画しようと思ったのは何故か。

#### 【放送局】

「B-19 ROCK CLASSICS」というクラシック・ロックの楽曲を扱った番組が有るが、この番組は 60 年代前半から 80 年代ま

でリリースされた楽曲から名曲・ヒット曲は勿論、ヒットには繋がらなかったがラジオで頻りに流れていたような局地的に人気があった楽曲、時代背景を色濃く反映した楽曲等、様々な点を加味して選曲した結果、非常にさまざまなロックが放送される番組になってしまった。例えば、プログレッシブ・ロックが流れた後にカントリー・ロックやルーズ・ロックが流れ、その後にはパンク・ロック、ハード・ロックが流れてしまうため、BGM としての統一感は無く、シャッフル放送ではあるがカタログのような番組になってしまっていると感じる。

「Let It ROCK MUSIC！（仮）」は、名曲であるといったような今日まで伝えられる評価は度外視し、聴感上、楽しく、刺激的で、ダンスブルで、幅広い世代の方に聴いて頂けるような選曲をした。名曲や定番でも敢えて選曲しないことも有るので、ロックらしさは薄いかもしれない。

#### 【審議委員】

コンプレッションの番組は色々有るが、実際に「Let It ROCK MUSIC！（仮）」が放送され始めたらどのような人達がこの番組を聴くか興味が有る。予測不能で普通の人は作れないような番組は新しいと思うので、放送されるようになって欲しい。私は面白い番組だと思った。

#### 【審議委員】

3 番組とも常識的に、年代的に考えるとどれも想定外の選曲で、とても楽しく聴いたが、番組名は分かりづらい。「上質空間向け」の 2 番組は安い居酒屋で流れていても、高級デパートで流れていても良いと思うし、お客様が番組名から選曲内容をイメージ出来て、選ぶことが出来るかというのは非常に大きな問題だ。

「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」では、無機質でクールな、洗練された無国籍な感じの音楽を選びたかったのだろうと思うし、その点では成功している。無機質でクールであるということは、その分非常に無国籍で無責任でもある。その良い意味での無責任さが実は 3 番組に共通して面白かった点だ。様々な場所で流してもおかしくない新しい選曲の方法で、今でなければ、つまり 80 年代以降に生まれてきたような人でなければ選曲出来ない番組なので、それは 1 つの新しい価値だと思うが、今の「上質空間向け BGM」という番組名ではこの番組の面白さを番組名で分かってもらえないと思う。例えば「アンビエント・エスニック・ミュージック」、「アンビエント・クラシック・ミュージック」、「アンビエント・ロック・ミュージック」のような訳の分からないタイトルの方が、ひょっとしたら一番合うのではないか。つまり環境音楽的クラシックであり、環境音楽的ロックであり、という意味での「アンビエント」という言葉を使った方が分かりやすいと思う。「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」は強烈な個性を持った高級ファッションのブランド店にも合うだろうし、それとは対照的な古着屋で流れていても面白いと思う。

「上質空間向け BGM-クラシック(仮)」も番組名に問題は有るが、有名なアーティストの楽曲を沢山選曲していて、クラシックのベースはヨーロッパだとしても中にはエレクトリックな楽曲も選曲されていて、面白い選曲だった。自宅で BGM として流れていても良いと思う程、この番組は気に入った。

「Let It ROCK MUSIC！（仮）」は本当に意外な選曲だ。制作者は 1980 年代以降に生まれた人ではないかと思いながら聴いた。キャッチーで高揚感が有るというコンセプトで選曲していると思うが、今までにない、だからこそ生まれる想定外の組み合わせが非常に面白かった。

#### 【放送局】

良い意味での無責任というご意見を頂いたが、自分達では気付いていなかったのを改めて認識したい。

番組名についても沢山ご指摘頂いたが、今回の 3 番組はどれも再考を重ねた結果付けた番組名だ。分かりやすさを重

視し、ターゲットと雰囲気、音楽ジャンルを組み合わせた番組名を付けたが、番組名と選曲内容が完璧に合っているとは勿論思っていないので、頂いた意見を参考に再考したい。

番組名も大切だが、我々が最もこだわっているのは、やはり番組の選曲内容だ。

「Let It ROCK MUSIC！（仮）」は予想していた通りのご指摘を頂いたが、新しいというご意見はポジティブに受け止めた。まだ企画段階で、今回聴いて頂いたのはその中でも極端に選曲した内容なので、この番組が実際に放送されるようになったら今とは異なる感想を抱かれるかもしれないが、今回頂いたご意見を参考に選曲を進めたいと思う。

「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」に関しては、ジャンルレスであること、モノトーンな選曲であること、テンポが変わらないことを良いとして選曲をしていたが、沢山のご指摘を頂いたので改めて見直したい。「上質空間向け BGM-クラシック(仮)」にも共通して言えることだが、上質の反対は身近であり、リラックス出来るものであるというのは発見だった。ターゲットに関しても、場所なのか、人なのかを改めて考えて明確にしたい。

「上質空間向け BGM-ジャンルレス(仮)」、「上質空間向け BGM-クラシック(仮)」に関しては、コンテンポラリーだと言って頂いたことも印象的だ。USEN には今回のような挑戦的な番組がまだ少ないので、番組の編成も含め今後検討していきたい。